

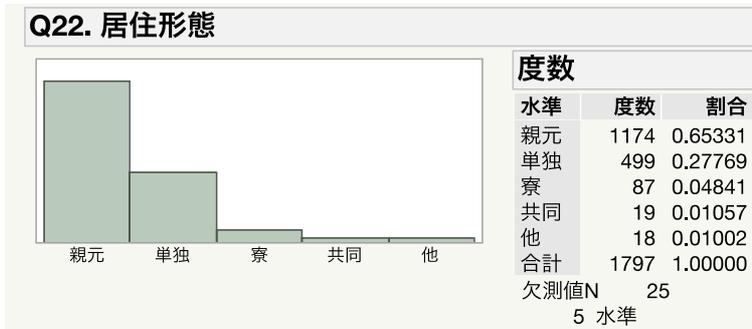
9. 生活・心身の悩み・経済状況など

このセクションでは、Q22～Q38 の、生活状況や悩みの有無、経済状況等に関する部分について結果を報告する。

【現在の生活状況】

Q22 今年度の居住形態はどれに当てはまりますか。最も期間が長いものを選んでください。

- ①親元で暮らしている [親元]
- ②ひとり暮らし [単独]
- ③学生寮・部活動の寮 [寮]
- ④ルームシェア・シェアハウス [共同]
- ⑤その他 [他]



| 学年 | 親元 | 単独 | 寮 | 共同 | 他 |
|----|------|------|-----|-----|-----|
| 1 | 65.2 | 27.7 | 5.7 | 0.8 | 0.6 |
| 2 | 64.0 | 29.3 | 4.3 | 1.0 | 1.6 |
| 3 | 65.0 | 28.1 | 4.4 | 1.5 | 1.0 |
| 4 | 69.5 | 23.9 | 4.4 | 1.3 | 0.9 |

居住形態に関しては、約 65%が「親元で暮らしている」と答えた。このことから、本学において首都圏近郊からの進学・通学者が多いことがうかがえる。なお、2021 年度はコロナ禍のためにオンライン授業を自宅で受講する機会が多く、全体の数値に影響した可能性もある。

Q23 通常時の主な通学手段は何ですか。最も利用時間が長いものを選んでください。

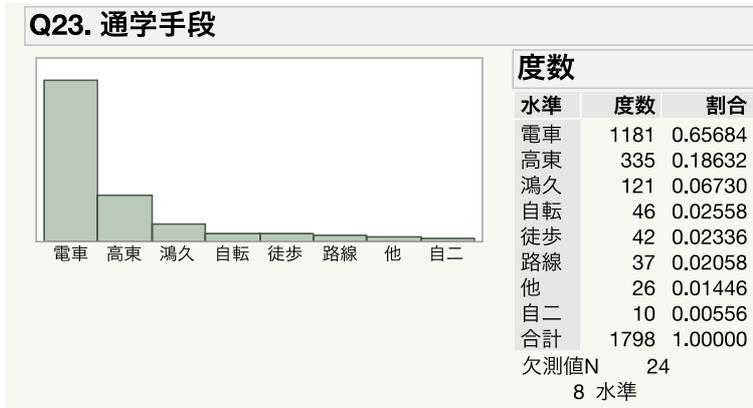
- ①電車 [電車]
- ②スクールバス（高坂／東武練馬～キャンパス） [高東]
- ③スクールバス（鴻巣便／久喜便） [鴻久]
- ④路線バス [路線]
- ⑤自動二輪・原付 [自二]
- ⑥自転車 [自転]

⑦徒歩

[徒歩]

⑧その他

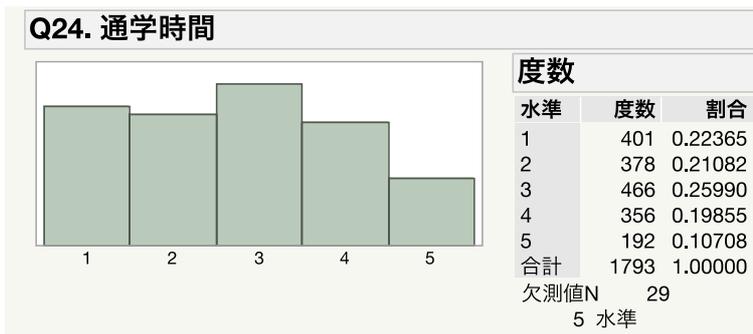
[他]



通学手段に関して、約 66%が「電車」と答えた。次いで約 19%が「スクールバス（高坂／東武練馬～キャンパス）」であり、キャンパスの最寄り駅周辺に居住している学生の利用がうかがえる。また、約 7%が「スクールバス（鴻巣便／久喜便）」であるが、これは埼玉県東部地域居住学生の通学手段の需要が一定数あることが見てとれる。

Q24 通常時の通学所要時間(片道)はどの程度ですか。

- ①30 分未満
- ②30 分～1 時間未満
- ③1 時間～1 時間 30 分未満
- ④1 時間 30 分～2 時間未満
- ⑤2 時間以上

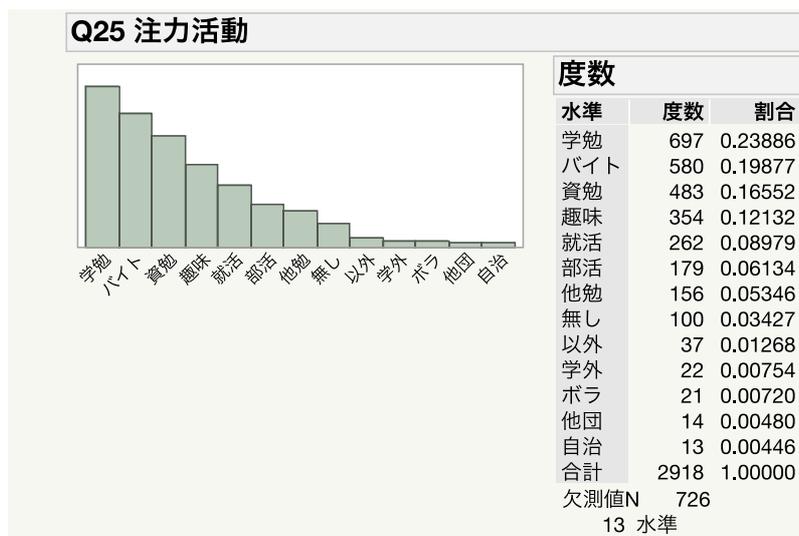


最頻値は 3（1 時間～1 時間 30 分未満）で、約 26%を占める。3 と 4 と 5（通学所要時間が 1 時間以上）の合計の割合が約 57%であり、Q22 において約 65%が「親元で暮らしている」と回答していることから通学時間の長さとの関連が見てとれる。

【取り組んでいること・課外活動】

Q25 現在、特に力を入れて取り組んでいることは何ですか。(主なものを2つまで)

- ①学部学科の勉強 [学勉]
- ②資格試験の勉強 [資勉]
- ③その他の勉強 [他勉]
- ④部活動・サークル活動 [部活]
- ⑤上記④以外の学生自治会の活動 [自治]
- ⑥そのほかの団体・委員会等大学内のコミュニティの活動 [他団]
- ⑦ボランティア活動 [ボラ]
- ⑧アルバイト [バイト]
- ⑨学外のコミュニティ等の活動 [学外]
- ⑩趣味の活動 [趣味]
- ⑪就職活動・インターンシップ [就活]
- ⑫上記以外 [以外]
- ⑬とくに何にも力を入れていない [無し]



全学では、最頻値は「学勉」(学部学科の勉強)で、約24%を占め、次いで「バイト」(アルバイト)が約20%であり、約半数の割合が勉強とアルバイトに注力していることがわかる。次に学年別の分布を示す。

| 学年 | 学勉 | バイト | 資勉 | 趣味 | 就活 | 部活 | 他勉 | 無し | 以外 | 学外 | ボラ | 他団 | 自治 |
|----|------|------|------|------|------|-----|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 1 | 30.6 | 23.5 | 15.8 | 12.4 | 0.8 | 7.2 | 4.1 | 2.6 | 0.7 | 0.8 | 0.4 | 0.5 | 0.6 |
| 2 | 27.8 | 19.8 | 18.7 | 12.1 | 1.4 | 7.0 | 5.5 | 4.5 | 0.6 | 0.7 | 0.9 | 0.7 | 0.4 |
| 3 | 14.8 | 15.9 | 14.6 | 7.5 | 33.6 | 4.1 | 3.9 | 1.7 | 1.7 | 0.3 | 1.3 | 0.3 | 0.3 |
| 4 | 8.9 | 15.7 | 17.2 | 20.6 | 7.7 | 4.3 | 12.0 | 6.8 | 4.0 | 1.5 | 0.3 | 0.3 | 0.6 |

学年別には、「学勉」(学部学科の勉強)と「バイト」(アルバイト)の割合が最も高いのは1年生である。一方で最も低いのは4年生であった。学年の順序では4年<3年<2年<1年であり、進級するほど「学勉」(学部学科の勉強)と「バイト」(アルバイト)の割合が減少していることがわかる。なお、「就活」(就職活動・インターンシップ)が最も高いのは3年生で、「趣味」(趣味の活動)や「他勉」(その他の勉強)が最も高いのは4年生である。

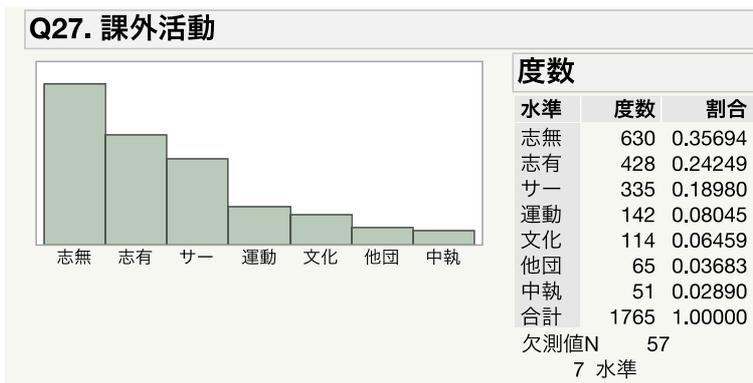
Q26 Q25で「⑫上記以外」を選んだ方は、その内容について教えてください。(自由記述)

Q25で「⑫上記以外」を選んだ学生は37名おり、そのうち28名がQ26に実質的なコメントを書いていた。大まかに分類すると、卒業後の進路に関連すること(芸能活動、社会人サークル等)が12件、自己研鑽に関連すること(筋トレ、読書、資格学習等)が7件、大学の授業に関連すること(ゼミ活動、論文執筆、実習等)が6件、その他が3件であった。大学卒業後の進路や新生活に向けて準備を行っている趣旨のコメントが多かった。

Q27 現在、学内の課外活動団体等(部活動・サークル活動・委員会活動等)に所属していますか。主に活動しているものを選んでください。引退した方は「所属している」ものとしてお答えください。

※組織：文化団体連合会・体育連合会・大東祭実行委員会・放送協会・全學應援團

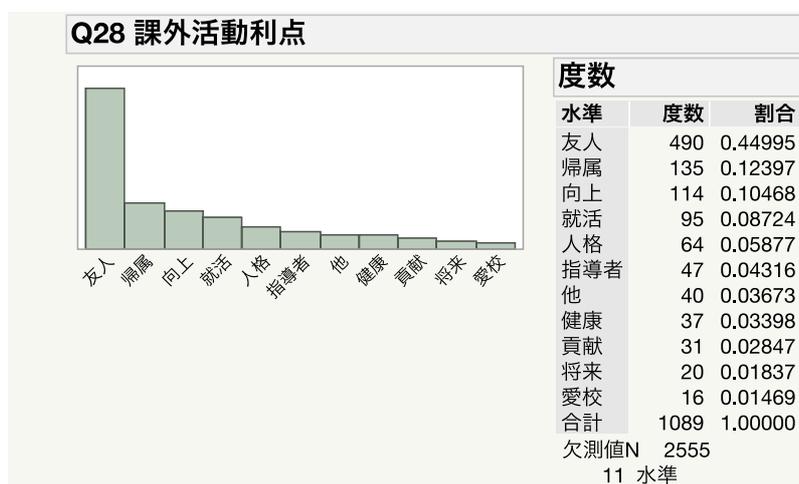
- ①中央執行委員会・組織※・機関に所属している [中執]
- ②運動部に所属している [運動]
- ③文化部に所属している [文化]
- ④サークルに所属している(公認・非公認問わず) [サー]
- ⑤そのほかの団体・委員会等大学内のコミュニティに所属している [他団]
- ⑥所属する意志はあるが、所属していない [志有]
- ⑦所属する意志がなく、所属していない [志無]



最頻値は、「志無」(所属する意志がなく、所属していない)が36%で、次いで「志有」(所属する意志はあるが、所属していない)が24%だった。合計すると、60%の割合で課外活動に参加していないことが見てとれる。なお、2021年度はコロナ禍のため課外活動が制限されたことにより、全体の数値に影響した可能性もある。

Q28 Q27 で①～⑤を選んだ方は、課外活動で良かったと思うことを教えてください。(主なものを2つまで)

- ①よい指導者に出会えた [指導者]
- ②友人を得た [友人]
- ③居場所・帰属感を得た [帰属]
- ④愛校心を持つことができた [愛校]
- ⑤技術や知識の向上に役立った [向上]
- ⑥社会貢献ができた [貢献]
- ⑦人格形成に役立った [人格]
- ⑧健康増進に役立った [健康]
- ⑨将来の夢が持てた [将来]
- ⑩就職活動に役立った (役立ちそう) [就活]
- ⑪その他 [他]



最も頻度が高いのは「友人」(友人を得た)である。上の表で「割合」とあるのは、すべての回答を 1.00 としたときの割合であるが、この項目に回答した人数は 710 人であり、回答した人数に対する割合で見ると、回答者の約 69%が「友人」(友人を得た)を挙げていたことがわかる。このことから、共通の課外活動を通じた交友関係の構築に利点を感じた学生の割合が高かったことがうかがえる。

Q29 Q27 で⑥～⑦を選んだ方は、課外活動を行うことや、団体への入部や参加を考えるうえで障壁になること、抵抗を感じることは何ですか。(主なものを2つまで)

- ①通学距離との関係 [通学]
- ②学業との両立 [学業]
- ③アルバイトとの両立 [バイト]
- ④人間関係 [人間]
- ⑤集団生活に拘束されること [集団]
- ⑥費用がかかる [費用]

- ⑦怪我や健康面 [健康]
- ⑧学外の団体の方がいい [学外]
- ⑨ほかにやりたいことがある [興味]
- ⑩入部制限がある [制限]
- ⑪その他 [他]



最も頻度が高いのは「通学」（通学距離との関係）である。この項目に回答した人数は 1135 人であり、回答した人数に対する割合で見ると、約 36%が「通学」（通学距離との関係）を挙げていることがわかる。次いで、「学業」（学業との両立）が約 27%、「バイト」（アルバイトとの両立）が約 26%と続いている。このことから、自身の学生生活と両立することに障壁を感じて課外活動に参加できない学生が多いことがうかがえる。

【不安・悩み】

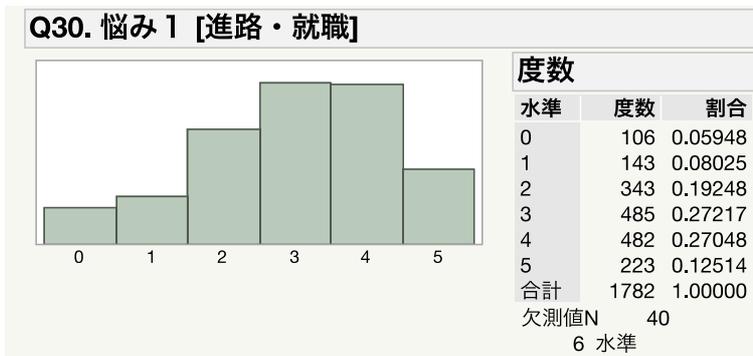
Q30 次のそれぞれの事項に対する不安や悩みはどの程度ですか。0(不安なし)～5(耐え難いほど)の 6 段階で選んでください。

0 (不安なし) 1 (少し) 2 (多少) 3 (かなり) 4 (非常に) 5 (耐え難いほど)

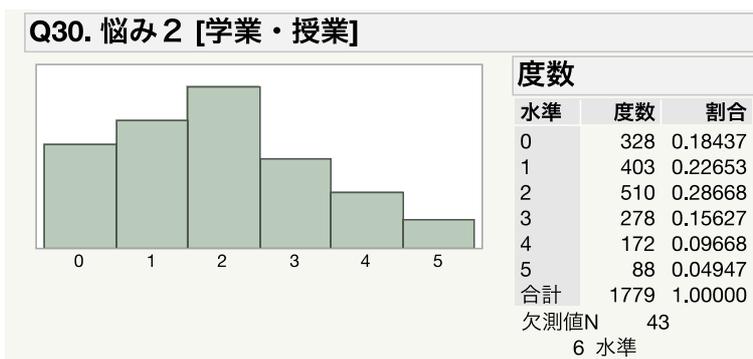
- ①進路・就職
- ②学業・授業
- ③留学
- ④心身の健康
- ⑤アルバイト先での問題
- ⑥経済的問題
- ⑦対人・友人関係
- ⑧課外活動
- ⑨家族関係
- ⑩性の悩み

- ⑪恋愛の悩み
- ⑫性格・能力
- ⑬人生観
- ⑭ハラスメント

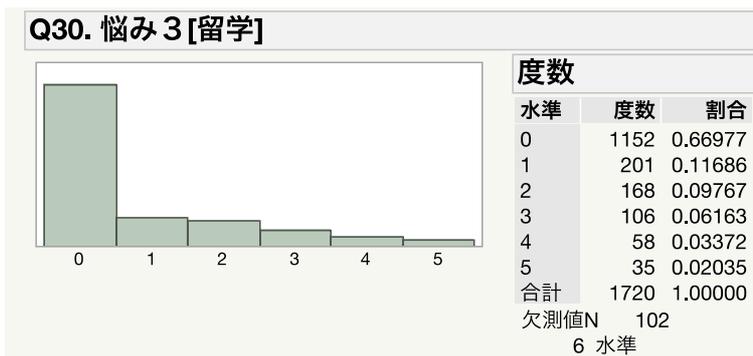
<進路・就職>



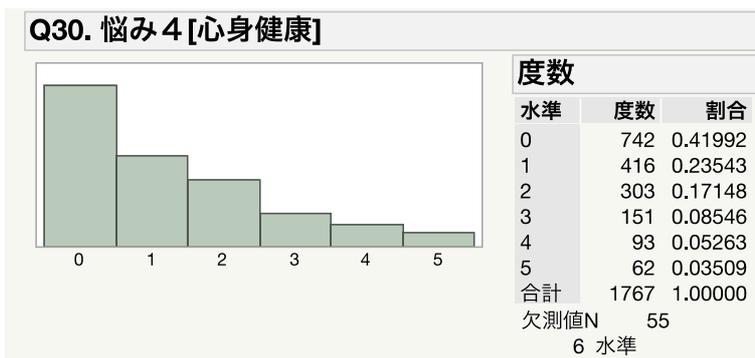
<学業・授業>



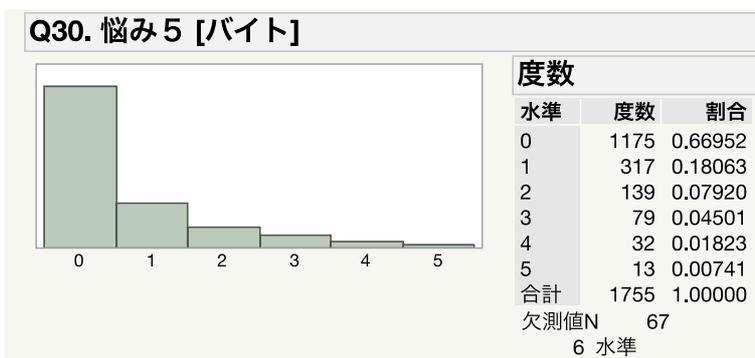
<留学>



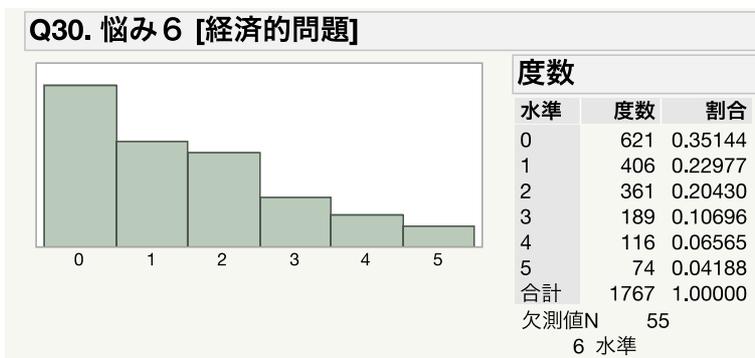
<心身の健康>



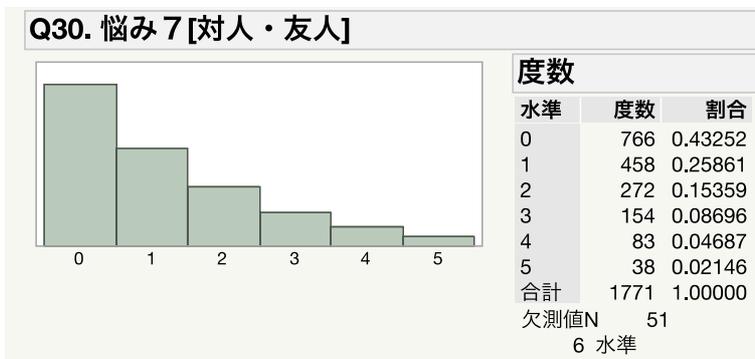
<アルバイト先での問題>



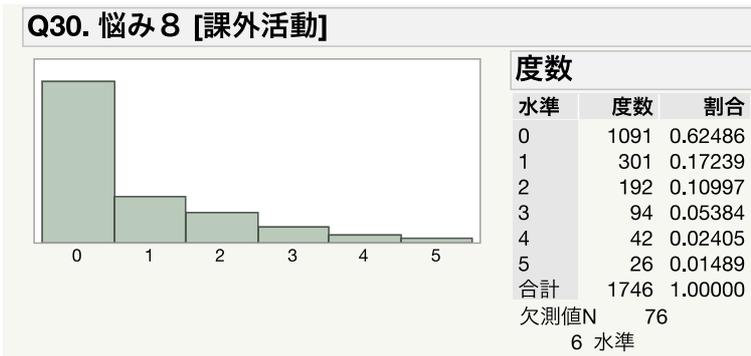
<経済的問題>



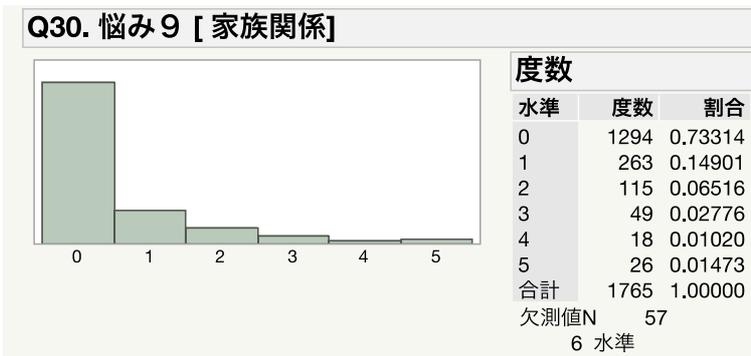
<対人・友人関係>



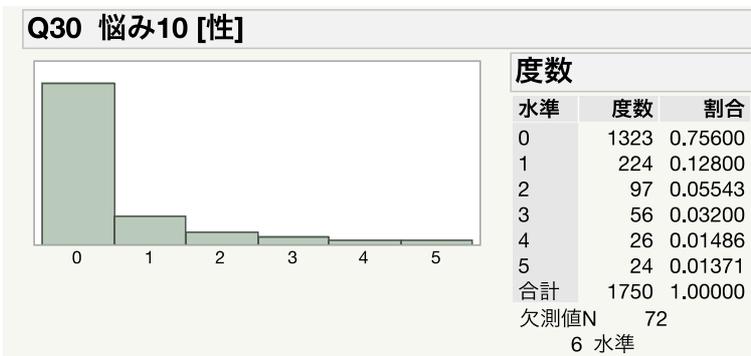
<課外活動>



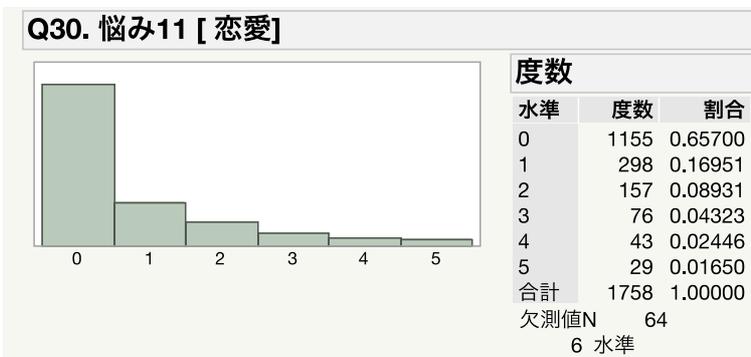
<家族関係>



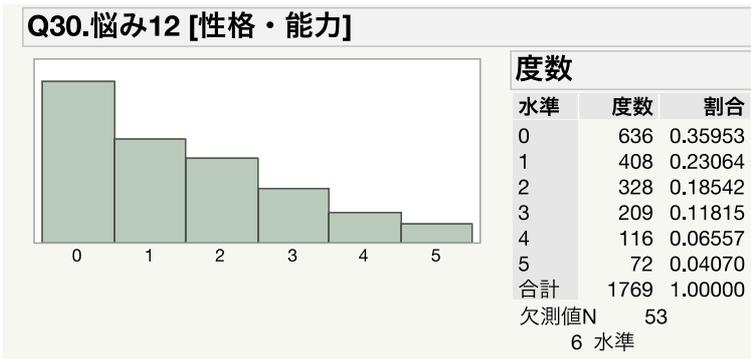
<性の悩み>



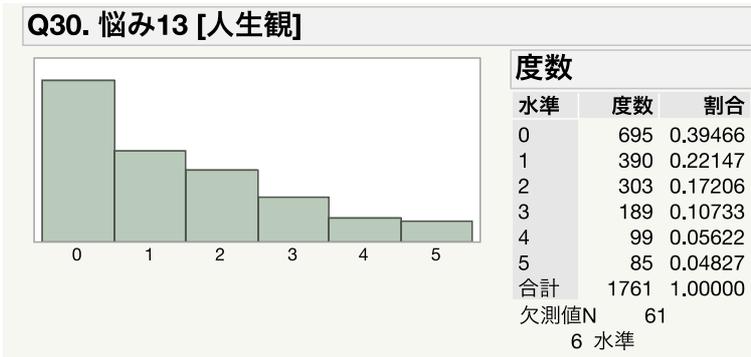
<恋愛の悩み>



<性格・能力>



<人生観>



<ハラスメント>



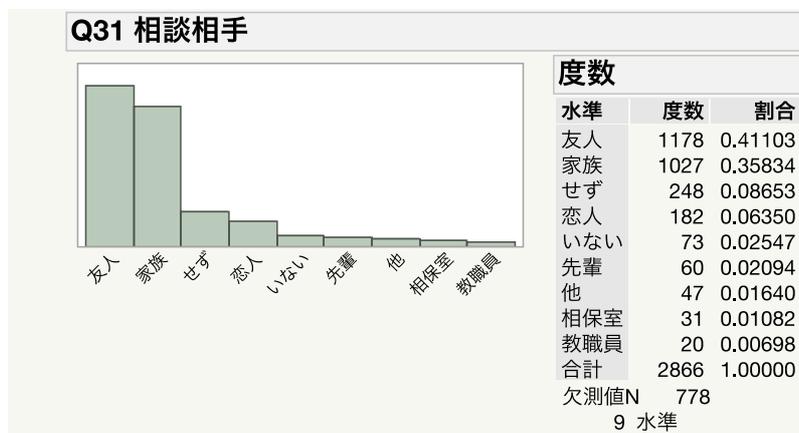
<平均値と標準偏差の一覧>

| | 平均 | 標準偏差 |
|--------------------|------|------|
| Q30. 悩み1 [進路・就職] | 2.99 | 1.35 |
| Q30. 悩み2 [学業・授業] | 1.90 | 1.39 |
| Q30. 悩み3 [留学] | 0.73 | 1.25 |
| Q30. 悩み4 [心身健康] | 1.22 | 1.39 |
| Q30. 悩み5 [バイト] | 0.58 | 1.02 |
| Q30. 悩み6 [経済的問題] | 1.43 | 1.44 |
| Q30. 悩み7 [対人・友人] | 1.12 | 1.30 |
| Q30. 悩み8 [課外活動] | 0.72 | 1.15 |
| Q30. 悩み9 [家族関係] | 0.48 | 0.98 |
| Q30. 悩み10 [性] | 0.46 | 1.00 |
| Q30. 悩み11 [恋愛] | 0.66 | 1.13 |
| Q30. 悩み12 [性格・能力] | 1.42 | 1.44 |
| Q30. 悩み13 [人生観] | 1.35 | 1.47 |
| Q30. 悩み14 [ハラスメント] | 0.20 | 0.63 |

「進路・就職」の平均値が格段に高い。かなり差はあるが次は「学業・授業」、「経済的問題」、「性格・能力」、「人生観」そして「心身の健康」「対人・友人関係」と続き、ここまでが平均値 1.0 以上である。その他の項目の平均値は 1.0 未満ではあるが、平均値は低くても、ヒストグラムに示したように、すべての項目において 5（耐え難いほど）と回答している学生が人数は少ないながらも存在していることはきちんと認識せねばなるまい。学生支援センターでは HP に「困った時/ヘルプが欲しい時」というページを設け (<https://www.daito.ac.jp/campuslife/help/>)、さまざまなチャンネルを通じて学生の支援を試みているが、そのようなチャンネルについてのより一層の周知を試みたいと考える。

Q31 不安や悩みを相談している相手は誰ですか(主な相手を 2 つまで)

- ①家族 [家族]
- ②友人 [友人]
- ③恋人 [恋人]
- ④先輩 [先輩]
- ⑤大学の教職員 [教職員]
- ⑥学生相談室・保健室 [相保室]
- ⑦相談できるひとがいない [いない]
- ⑧他人には相談しない [せず]
- ⑨その他 [他]



相談相手として「友人」が約 41%、「家族」が約 36%と圧倒的に割合が大きい。一方で「相保室」（学生相談室・保健室）と「教職員」（大学の教職員）については約 1%程度である。この結果をみると、学生の相談がしやすい仕組みづくりに関して、より検討していく必要があると考えられる。

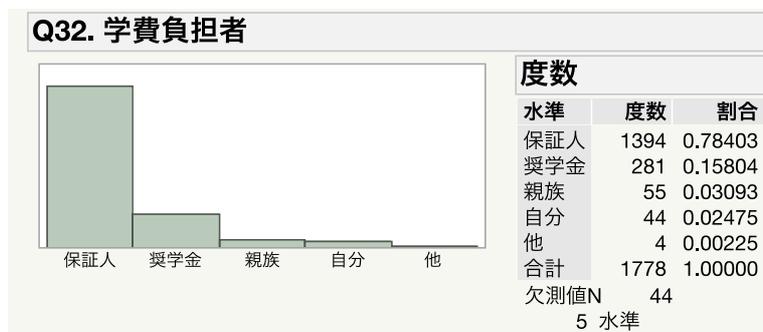
| 学年 | 友人 | 家族 | せず | 恋人 | いない | 先輩 | 他 | 相保室 | 教職員 |
|----|------|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 1 | 42.1 | 36.2 | 8.8 | 5.3 | 2.4 | 2.4 | 1.8 | 0.6 | 0.5 |
| 2 | 39.3 | 37.1 | 9.3 | 5.9 | 3.9 | 2.0 | 1.7 | 0.6 | 0.1 |
| 3 | 40.6 | 34.3 | 7.4 | 8.6 | 2.0 | 1.9 | 1.7 | 2.2 | 1.4 |
| 4 | 43.3 | 34.6 | 8.9 | 6.4 | 0.8 | 2.0 | 0.8 | 1.7 | 1.4 |

「友人」と「家族」の割合については、学年別にみても特段の違いは認められない。しかし、「相保室」（学生相談室・保健室）と「教職員」（大学の教職員）については、3・4年生に比べて1・2年生の割合が低いことが気になるところである。数値の低さはコロナ禍のため大学に登校する機会が少なかったことが影響している可能性もある。

【経済状態・アルバイト】

Q32 学費の金額を最も多く負担しているのは次のどれですか。

- ①保証人（親など） [保証人]
- ②自分 [自分]
- ③奨学金 [奨学金]
- ④祖父母等親族 [親族]
- ⑤その他 [他]

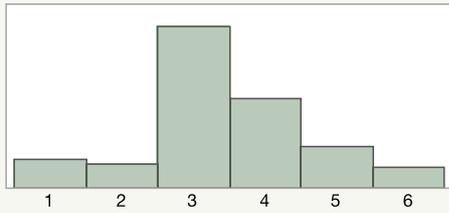


最頻値は「保証人」（保証人（親など））で約78%であった。次いで「奨学金」が約16%と続き、合計して約94%を占めている。一方で全体の約2%が「自分」であり、学費を自身で学費を支弁していることがわかる。

Q33 現在の家庭の経済状況はいかがですか。

- ①余裕がある
- ②やや余裕がある
- ③普通
- ④やや苦しい
- ⑤苦しい
- ⑥不明

Q33. 経済状況



度数

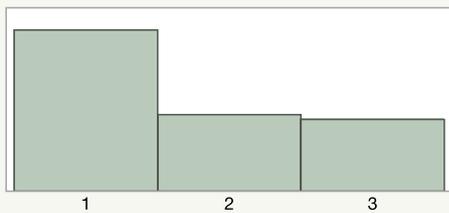
| 水準 | 度数 | 割合 |
|------|------|---------|
| 1 | 134 | 0.07532 |
| 2 | 113 | 0.06352 |
| 3 | 793 | 0.44576 |
| 4 | 440 | 0.24733 |
| 5 | 201 | 0.11298 |
| 6 | 98 | 0.05509 |
| 合計 | 1779 | 1.00000 |
| 欠測値N | 43 | |
| 6 水準 | | |

最頻値は3（普通）で約45%である。なお、4（やや苦しい）と5（苦しい）をあわせると約36%が経済状況について苦しいと回答していることがわかる。

Q34 今年度のアルバイトについて選んでください。

- ①常時している／いた
- ②時々している／いた
- ③していない

Q34. 今年度アルバイト



度数

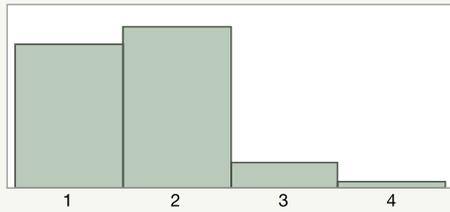
| 水準 | 度数 | 割合 |
|------|------|---------|
| 1 | 932 | 0.52389 |
| 2 | 438 | 0.24621 |
| 3 | 409 | 0.22990 |
| 合計 | 1779 | 1.00000 |
| 欠測値N | 43 | |
| 3 水準 | | |

最頻値は1（常時している／いた）で約52%であった。なお、2（時々している／いた）および3（していない）の回答者には、コロナ禍の影響で思うようにアルバイトができなかった学生が含まれている可能性も考えられるであろう。

Q 35 Q34 で①～②を選んだ方は、アルバイトと学業の両立はできていますか。

- ①できている
- ②ある程度できている
- ③あまりできていない
- ④まったくできていない

Q35. アルバイト学業両立



| 度数 | | |
|------|------|---------|
| 水準 | 度数 | 割合 |
| 1 | 593 | 0.43002 |
| 2 | 663 | 0.48078 |
| 3 | 102 | 0.07397 |
| 4 | 21 | 0.01523 |
| 合計 | 1379 | 1.00000 |
| 欠測値N | 443 | |

4 水準

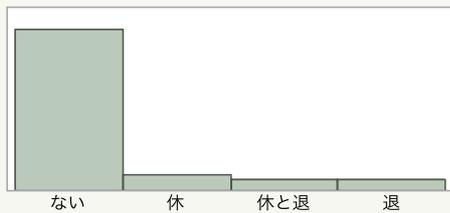
1（できている）と2（ある程度できている）を合わせると、約88%の学生についてアルバイトと学業の両立がとれていることが見てとれる。ただし一方で3（あまりできていない）と4（まったくできていない）の割合を合わせると、約9%の学生がアルバイトによって学業に支障をきたしていることが気になる。奨学金などの支援制度の利用促進や、金銭面を理由とした修学継続に関する悩み相談がしやすい仕組みづくりの必要性がうかがえる。

【休学・退学】

Q36 休学や退学を考えたことがありますか

- ①休学を考えたことがあるが退学を考えたことはない [休]
- ②退学を考えたことがあるが休学を考えたことはない [退]
- ③休学と退学の両方を考えたことがある [休と退]
- ④休学も退学も考えたことがない [ない]

Q36. 休学・退学



| 度数 | | |
|------|------|---------|
| 水準 | 度数 | 割合 |
| ない | 1465 | 0.82350 |
| 休 | 135 | 0.07589 |
| 休と退 | 89 | 0.05003 |
| 退 | 90 | 0.05059 |
| 合計 | 1779 | 1.00000 |
| 欠測値N | 43 | |

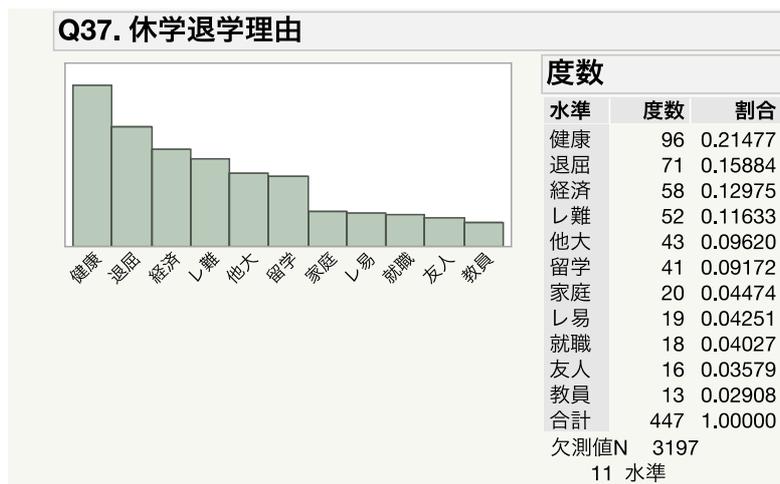
4 水準

最頻値は「ない」（休学も退学も考えたことがない）で約82%であった。一方で、全体の約2割の学生が休学もしくは退学を検討したことがあるとあげていたことがわかる。

Q37 Q36で①～③を選んだ方は、その理由を教えてください(主なものを2つまで)

- ①授業が難しい／成績が振るわない等 [レ難]
- ②授業が易しすぎる／授業のレベルに不満である等 [レ易]
- ③授業に興味を持てない／授業がつまらない等 [退屈]
- ④教員とうまくいかない等 [教員]
- ⑤大学で友人関係がうまくいかない等 [友人]

- ⑥経済的事情 [経済]
- ⑦家庭の事情 [家庭]
- ⑧心身の健康面 [健康]
- ⑨留学・ワーキングホリデーのため等 [留学]
- ⑩他大学への入学・入学 [他大]
- ⑪働きたい [就職]

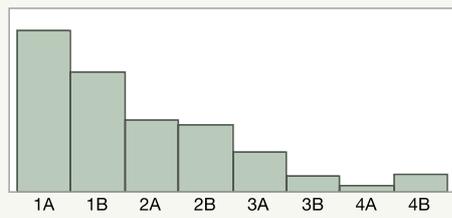


Q36.において、休学もしくは退学を考えたことがあると回答した学生は314人であり、回答した人数に対する割合を見てみると、「健康」（心身の健康面）が約36%であった。次いで「退屈」（授業に興味を持ってない／授業がつまらない等）が約23%と続いた。

Q38 Q36で①～③を選んだ方は、最初に考え始めた時期はいつ頃ですか。

- ① 1年次前期（夏休みを含む） [1 A]
- ② 1年次後期（春休みを含む） [1 B]
- ③ 2年次前期（夏休みを含む） [2 A]
- ④ 2年次後期（春休みを含む） [2 B]
- ⑤ 3年次前期（夏休みを含む） [3 A]
- ⑥ 3年次後期（春休みを含む） [3 B]
- ⑦ 4年次前期（夏休みを含む） [4 A]
- ⑧ 4年次後期（春休みを含む） [4 B]

Q38. 休学・退学時期



度数

| 水準 | 度数 | 割合 |
|------|------|---------|
| 1A | 88 | 0.32714 |
| 1B | 65 | 0.24164 |
| 2A | 39 | 0.14498 |
| 2B | 36 | 0.13383 |
| 3A | 21 | 0.07807 |
| 3B | 8 | 0.02974 |
| 4A | 3 | 0.01115 |
| 4B | 9 | 0.03346 |
| 合計 | 269 | 1.00000 |
| 欠測値N | 1553 | |
| 8 水準 | | |

1A（1年次前期（夏休みを含む））の回答が最も多く、学年があがるごとに減少していることが観察できる。1年次の回答の割合が突出して高いことが気になる。

10. 本学への意見等 [自由記述]

このセクションでは、Q39（本学への意見等）に対する自由記述の結果を報告する。

Q39 本学への意見等、自由に書いてください。

「特にありません」に類するものが34件。それを除いて実質的なコメントを書いたものが352件あった。それらを1件毎に精査し、言及している内容で分類し帰納的にラベル（下位コード）を付与していった。1件の中で複数の内容に言及しているものは複数の下位コードを付与した。類似の内容はひとつの上位コードにまとめた。以下、コード毎に該当件数によって降順にソートして示す。

<全体的な分布>

| コードシステム | 件数 |
|-------------------|-----|
| コードシステム | 406 |
| > 授業について(形態) | 92 |
| > 授業について(その他) | 63 |
| > 大学全体の印象について | 65 |
| > 施設/設備について | 50 |
| > 学費・経済面について | 40 |
| > コロナ禍について | 25 |
| > 学生へのサポートについて | 16 |
| 特定の部局・教職員に係る不満の表明 | 13 |
| 自身の決意・自身に対する戒め | 12 |
| > アンケート調査について | 5 |
| > 立地・環境について | 5 |
| 知っておきたい学生の「声」 | 20 |

全該当件数406のなかで授業に関するものが最も多く、授業形態についてが92件、それ以外についてが63件であった。以下、大学全体の印象、施設/設備について、と続いた。以下、それぞれの上位コードを展開した下位コードの分布を示す。

<授業について(形態)>

授業の形態については、オンライン授業を続けて欲しい、またはオンライン授業も存続して欲しいという声が多かったのだが、逆に対面授業にして欲しい、対面授業を増やして欲しいという声もほぼ同程度にあった。またオンラインでの受講と対面での受講を選択できるシステムにして欲しいという声も目立った。とくにオンライン授業の存続を求める声の中に、それによって両キャンパス間の移動にかかる問題が克服されるはずだ、という声が目立った。これについては検討に値すると思われる。

| | |
|------------------------|----|
| 授業について (形態) | 0 |
| オンライン授業も/を続けて欲しい | 32 |
| 対面授業にして / 増やして欲しい | 29 |
| オンライン / 対面授業を選択式にして欲しい | 11 |
| 授業内容 (オンライン) に不満がある | 9 |
| 授業では対面 / オンライン統一して | 5 |
| 対面授業はやめて欲しい | 5 |
| オンライン授業で視力減退した | 1 |

#0505 授業に関して今までは、校舎が異なる授業を連続して履修することは出来なかったが、オンラインであれば、元々の開催校舎が異なっても履修できるようにしてほしい。

#1097 教職とゼミの両立をしたいが、教職必修の科目とゼミの科目がかぶってしまい、非常に苦しい状況である。2年次と3年次では違うキャンパスなので、科目が重なってしまうことで2年で教職必修科目が取れないと、3年で板橋と東松山を行き来しなければいけなくなる。このことは重々承知の上で両立を目指しているが、3年次修了までに教職の科目をとってなければ、4年次で教育実習に行くことができず、3年次でゼミと教職の科目がかぶってしまいと教員免許取得を諦めなければいけない状況となってしまう。教職課程には既にお金を振り込んでいて途中でやめると戻ってこない。このような状況になっていることにとっても大きな不安をいただいております、例えば教職の科目はオンラインにするなどの工夫をしてほしい。

#1346 完全に対面授業へ戻すのではなく、あえてオンラインで行う形の授業も残していただきたいと個人的に考えております。特に3年次以降は、板橋校舎がメインとなることで東松山校舎での授業を履修することが難しくなります。しかし2021年度はまだオンライン授業も多かったため、東松山校舎の授業をオンラインで履修し、多彩な学びを展開することが可能になっていました。対面で行う学習だけがより良いものだとは限らないことをご一考して頂けると幸いです。

#1548 対面とオンラインを選択にすることで板橋と東松山の壁がなくなり、より幅広く、興味のある講義に有意義に取り組むことができると私は考える。

#1787 他キャンパスの授業をオンラインで履修できるようになると90分の移動時間確保の必要が無くなり、授業選択の幅が広がると思いました。

<授業について(その他)>

開講形態以外で授業に関しては、授業内容や評価基準の改善を求める声が多かった。次に多かったのは諸々の決定およびその内容の通知をもっと早くして欲しいという声である。

#0354 アルバイトをしている学生はかなりいると思います。去年も開催しているような行事であれば遅くとも3週間前には告知して欲しいです。2週間前にいきなり告知して強制参加と言われても無理です。もう少し学生の立場に立って考えて欲しいです。

#1170 様々な連絡をもっと早く発信してほしい。なぜなら、アルバイトのシフトを一カ月前に提出しなければならないのに連絡が遅いとシフトを変えてもらわなくなってしまうからです。

#1239 オンライン授業で授業を進めていくのか、対面授業で進めていくのかといった判断が他の大学などな比べて遅いと感じます。これらは一人暮らしにおける経済面などでかなり重要となるので、改善して欲しいです。

また教員による授業の質の差を訴える声も目立った。

#0055 教員ガチャがひどい。

#0377 多くの先生方は変化する環境に苦戦を強いられながらも、私たち学生のために分かりやすく、柔軟に、そして速やかに授業を進めてくださったと感じています。しかし、中にはそうではない先生もいらっしゃいました。具体的には、無気力で、ただタスクを進めるだけ、そして生徒に強い不快感を与える先生です。多くの方がより良い授業を行おうと、今の環境の中で努力をなさっているのに、このような先生がいるのは非常に残念なことだと感じました。

このような「教員による授業の質の差（と学生に映ってしまう事例）」は、原則対面となれば緩和されることが期待されるが、オンライン形式による授業が将来的に必要となる可能性もあり、すべての教員が対面・オンラインを問わず質の高い授業を行えるための準備・努力は引き続き求められよう。

<大学全体の印象について>

| | |
|--------------------------|----|
| 大学全体の印象について | 0 |
| ● 良い大学だ・入学して良かった・充実していた | 39 |
| ● 大学名の印象が改善されて欲しい | 13 |
| ● 他の学生の質・行動に不満がある | 6 |
| ● サークル / 部活動 / 自治会にかかる要望 | 7 |

大学全体に関わるコメントとしては、「良い大学であった」「入学して良かった」といった肯定的なコメントが最も多かったのは安心材料ではあるものの、それと同時に本学の学生が大学名に関する世間的な評価に苦しんでいる実態もまた浮かび上がってくる。「入学してみたら（意外に）良い大学である（あった）と感じるが、大学名に対する世間の評価が高くないのが辛い」という要約が多くの学生に当てはまると考えられる。

#1286 大東文化大学はカリキュラムや設備が充実していてとても魅力的な大学であったと思います。また、頼もしい講師の方々・共に学んだクラスメート・サークルで出会った仲間・丁寧な警備員さん・気さくな食堂のおばちゃん

人など、大東文化大学で様々な人たちと出会い、恵まれた大学生活を送ることができました。素敵な 4 年間でありがとうございました。

#0856 入学当初は世間の評価などをネットで見て不安を感じていたが、先生や仲間たちは自分と同じ志を持ったいい人たちだと実感した。また、思っていたよりも充実した大学生活を送れた。

#0941 入学当初は受験に落ちてしまったため、この学校がとても嫌でした。しかし素敵な友人や先生方にすごく恵まれました。自分の夢が叶えられるととてもいい学校だったと思っています。

<施設／設備について>

| | |
|----------------------------|----|
| 施設 / 設備について | 0 |
| ● スクールバスに関する要望 | 14 |
| ● 教室等設備に関する要望 | 13 |
| ● 飲食物施設の充実の要望 | 11 |
| ● 施設を利用可能に・範囲・時間をより長く | 9 |
| ● トイレに暖房便座を・トイレトペーパーホルダの形状 | 2 |
| ● 施設がよい・満足だ | 1 |

施設・設備については Q7 での回答と同様で、スクールバスについての要望が最も多かった。

#1368 久喜バスの本数が少なすぎてとても不便です。急にバスダイヤ変更するのをやめてほしいです。アルバイトや他の日程に影響がある。

0970 本当にバスの台数を駅発と学校発の両方全ての時間で増やしてほしい。人が多すぎて密でコロナが怖い。

<学費・経済面について>

| | |
|-----------------------|----|
| 学費・経済面について | 0 |
| ● 状況に見合った学費に・もっと給付金を | 28 |
| ● 経済的に苦しい / 学費が高い | 7 |
| ● 学業成績優秀者への奨学給付金を増やして | 3 |
| ● 予算の使い方に不満である | 2 |

学費・経済面に関してはコロナ禍によってオンライン授業を開始して以来の、「オンライン授業によって従来の対面授業よりも質が落ちているのだから／大学の設備が使えないのだから、学費を減免・返還すべきだ、給付金を追加支給すべきだ」といった声がやはり多かった。これらの声は原則対面授業となることで解消されると期待される。コロナ禍と直接関係ないものとして、インセンティブとして学業成績優秀者に対する奨学金の枠を増やすべきだ、という声があった。

#0316 成績優秀者の範囲を増やして沢山の人が給付型の奨学金をもらうのがいい形だと思います。誰もが奨学金という借金を背負う時代はもう終わりにした方がいいと思います。

#0762 生徒の勉強意欲を上げるために成績による奨学金など学費の減額システムが欲しい。

<コロナ禍について>

| | | |
|-------|----------------------|----|
| ▼ ● ● | コロナ禍について | 0 |
| ● ● | 交流できる場が欲しい | 13 |
| ● ● | コロナのため大学生活が損なわれた・孤独だ | 12 |

コロナ禍によって学生同士で交流できる場がなかったので作って欲しいという声と、従来のような大学生活が損なわれて残念だ、という無理からぬ声があった。

<学生へのサポートについて>

| | | |
|-------|---------------------|---|
| ▼ ● ● | 学生へのサポートについて | 0 |
| ● ● | 就活・教職サポートが充実していて安心だ | 7 |
| ● ● | 就活サポートに不満・不安だ | 5 |
| ● ● | サポート・対応に感謝している | 3 |
| ● ● | 学生へのサポート不足だ | 1 |

学生へのサポートについては満足・安心できたという声が、不満足・不安だという声を上回った。

<特定の部局・教職員に係る不満の表明>

特定の部局や教職員に関するコメントについては、該当部局がわかる場合には必要に応じて伝達したうえで対応の必要性の有無の判断を仰ぎたい。特定部局でなく（おそらく事務）職員全般に対するコメントとしては以下のようなものがあった

#1160 職員の対応に温度差があり過ぎるのが気になります。親切に接している方もいらっしゃいますが、そうでないの方が大半だと思います。分からないから相談に来ているのに、知っている前提或いはそんなのも知らないのかみたいな態度をなされる方は特に困ります。なので、もっと分かりやすく、沢山情報を発していただけるとありがたいです。

<自身の決意・自身に対する戒め>

自分自身の決意表明としては、そのすべてが、気を引き締めて更に努力してゆきたい、といった前向きなものであった。

<アンケート調査について>

| | | |
|-------|----------------------------|---|
| ▼ ● ● | アンケート調査について | 0 |
| ● ● | アンケート結果が活かされていない / 設問が不十分だ | 3 |
| ● ● | アンケートの努力に感謝する | 2 |

アンケート調査について、結果が活かされていないのではないかという声があったことは真摯に受け止めたいと考えている。本アンケートの結果についても可能な限り学生の声が反映される方向で働きかけてゆきたい。

<立地・環境について>

| | |
|-----------------------|---|
| ▼ ● 立地・環境について | 0 |
| ● キャンパス立地が不便・立地以外は良い | 4 |
| ● 東松山キャンパス環境よい、板橋環境残念 | 1 |

立地および環境については、東松山キャンパスは環境はよいが立地が悪い、という声が多かった。

#0288 私は千葉に住んでおり、親にお金がかかるから一人暮らしはさせられないと言われました。1.2年時の東松山キャンパスまで片道、2時間半かかり、サークルに所属したかったのに出来ず、悔しい思いをしています。東松山キャンパスではなく、4年間板橋キャンパスで過ごしたかったです。

<知っておきたい学生の「声」>

直接受け止めておきたいと考えられた「声」の中で、これまでに紹介していないものを以下に掲載する（順不同・最小限の誤字訂正のほかは原文ママ）。すべてこれまでのいずれかのコードに分類カウントしたコメントである。

#0223 パソコンも使えない教員が多く、生徒が迷惑をしていた。どうにかした方がいいと思います。

#0012 コロナ禍で大学や学業に関する出費が増えた。変わらない年間の学費や教科書代に加えて、オンライン授業、課題に対応するためのパソコンの購入、配布物を印刷するためのコピー用紙、インク代費用、など。結果的に大学から出た給付金(10万円)以上の出費になってしまい、親に学費を払ってもらっているため自分のバイト代でその他をいつも以上に賄うのはきつかった。

#0126 他の大学に負けないくらいの魅力を確立してほしい。大東生として自信を持ちたい。

#0896 不本意で来た場所にはなりますが、更なる飛躍のために今いるこの場所を大事にします。私に学ぶ場を提供していただきありがとうございます。

以上